

### 雑誌「ライフ」

アメリカのグラフ雑誌「ライフ」が1999年に発表した「この1000年で最も重要な功績を残した世界の人物100人」の中に、日本人で唯一北斎が選ばれています。国内外において、北斎の人気の広く高いことが窺えます。



[The Life Millennium: The 100 Most Important Events and People of the Past, 1000 Year] 1998

# すみだの北斎



表紙「新形小紋帳」  
裏表紙「北斎漫画」二編より

平成25年8月 発行  
公益財団法人墨田区文化振興財団

# ゆかりの地 すみだ

## 北斎について

葛飾北斎は宝暦 10 年（1760）にすみだの地で生まれました。  
 幼い頃から絵を描くのが好きな少年でしたが、徳川幕府の御用鏡師、中島伊勢の養子となったといわれています。  
 幼少年の時代は、時太郎、鉄蔵と名乗りましたが、やがて絵師になると春朗、北斎、為一、画狂老人 卍 など、数々の画名を使いました。  
 北斎は当時としては大変な長寿で、90 歳で亡くなりますが、更に絵の道をきわめるため、長生きしたいと願っていました。



北斎肖像（溪斎英泉画）

## 北斎が生まれたところ

北斎が生まれたのは本所割下水の辺り（現在の亀沢付近）です。割下水とは、道路の中央部分に堀割が掘られていたことに由来します。現在は埋め立てられて道路となり、北斎通りと呼ばれています。

また北斎は、生涯で墨田区内を中心に 93 回もの引っ越しを繰り返しました。時には一日に 2 回も引っ越したといわれています。達磨横丁（東駒形一丁目付近）や榛稻荷神社脇（両国四丁目）などに暮らしていたことがわかっています。



寛政 8 年（1796）当時の割下水（本所絵図 部分）



明治 43 年（1910）当時の割下水（墨田区立緑図書館所蔵）



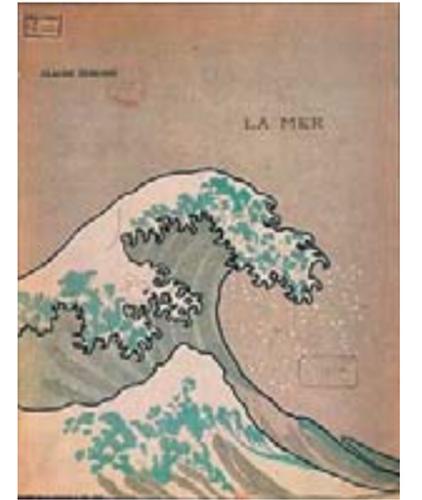
現在の北斎通り

# 海外に渡った北斎

19 世紀中ごろ、ヨーロッパでは浮世絵などの日本の美術・工芸品が人気を集め、ジャポニスムと呼ばれる大流行が起こりました。江戸時代末、北斎の作品は海を渡り、多くの芸術家たちを驚かせました。

## ドビュッシー

フランスの作曲家、クロード・ドビュッシー（1862-1918）は、1905 年に交響詩『海』を発表しました。そのスコアの表紙に、北斎の「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」が使われています。



ドビュッシー 交響詩『海』★  
スコアの表紙（1905 年版）

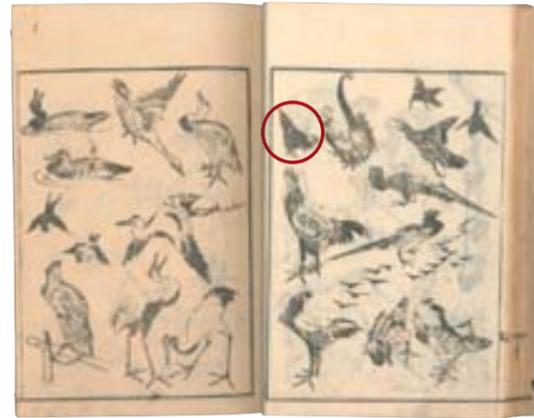


「富嶽三十六景 神奈川沖浪裏」

ブラックモン セルヴィス・ルソー 丸皿

とうきせいぞう  
陶器製造をしていたウジェーヌ・ルソーと画家のフェリックス・ブラックモンが共同製作した食器セットには『北斎漫画』のモチーフが図案化されています。

フェリックス・ブラックモン (1833-1914)  
「セルヴィス・ルソー (軟質陶器の食器セット)」丸皿 ★  
1876-1884 オルセー美術館所蔵  
©Musée d'Orsay, Dist. RMN-Grand Palais / Patrice Schmidt / distributed by AMF



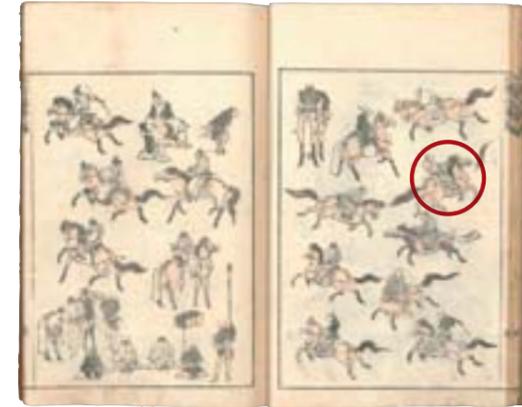
『北斎漫画』初編より



『北斎漫画』初編より



『北斎漫画』初編より



『北斎漫画』六編より



「行進 スタンド前の競走馬」(部分)



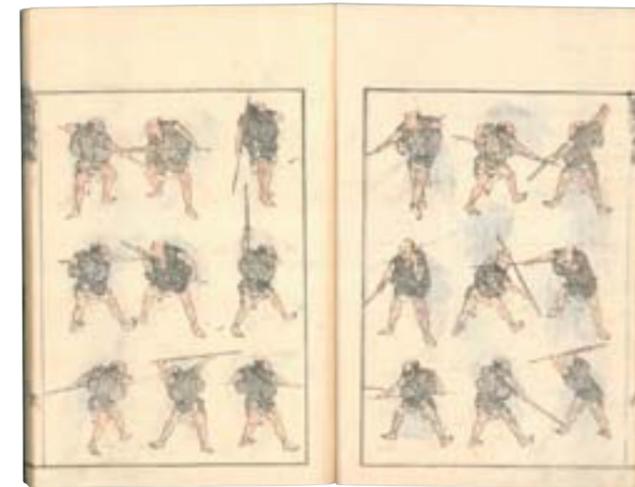
エドガー・ドガ (1834-1917) 「行進 スタンド前の競走馬」★  
1866-1868 オルセー美術館所蔵  
©RMN-Grand Palais (musée d'Orsay) / Hervé Lewandowski / distributed by AMF

ドガ 油彩画

印象派の画家エドガー・ドガは『北斎漫画』の馬のモチーフを「行進 スタンド前の競走馬」に取り入れています。

シーボルト『NIPPON』

ジャポニスムの大流行以前に北斎に注目していた人もいます。長崎出島のオランダ商館医だったフィリップ・フォン・シーボルトは、著書『NIPPON』の中に、『北斎漫画』の棒術稽古をする場面を写した挿絵を掲載しています。



『北斎漫画』六編より



フィリップ・フォン・シーボルト (1796-1866) 『NIPPON』★  
(1832-1882年刊行)より  
福岡県立図書館所蔵

## アンリ・リヴィエール

北斎が多くの芸術家たちに与えた影響は『北斎漫画』からだけではありません。中には「富嶽三十六景」で試みた、同じモチーフを様々な視点で描くというテーマに影響された画家もいました。画家のアンリ・リヴィエールは「富嶽三十六景」にちなみ、様々なエッフェル塔の姿を描いた「エッフェル塔三十六景」という版画のシリーズを発表しています。近景・遠景、四季折々のエッフェル塔の姿は、北斎が「富嶽三十六景」で描いた富士山を連想させます。



「エッフェル塔三十六景」



「富嶽三十六景 御厩川岸より両国橋夕陽見」



「富嶽三十六景 江戸日本橋」



「富嶽三十六景 東都浅草本願寺」



「富嶽三十六景 尾州不二見原」



アンリ・リヴィエール (1864-1951) 「エッフェル塔三十六景」

## 現代につながる北斎

現代でも、様々なところで北斎の作品を目にすることができます。

### 田んぼアート

田んぼアートとは、田んぼをキャンパスに見立て巨大な絵を作り出すプロジェクトです。1993年に青森県南津軽郡田舎館村が、村おこしの一つとして始めました。2007年の作品テーマに、北斎の作品が選ばれました。



田んぼアート2007 (青森県田舎館村)★



### 記念切手

1999年に発行された国際文通週間・グリーティング郵便切手は、墨田区が所蔵している北斎の「富嶽三十六景 深川万年橋下」と「牡丹に胡蝶」が絵柄になりました。これ以外にも、様々な北斎の作品が記念切手に使用されています。



「国際文通週間・グリーティング郵便切手 (万国郵便連合創設 125周年)」 (平成 11年 10月 6日発行)

### 富士山ベアブリック

「富士山を世界遺産に」というテーマで作られたグッズに、「富嶽三十六景 神奈川冲浪裏」が用いられています。



2012年に発売された「富士山ベアブリック」(完売)  
BE@BRICK TM & © 2001-2012 MEDICOM TOY CORPORATION. All rights reserved.

### 北斎タイル画

このタイトル画は、外手小学校の第90回卒業生共同制作作品です。



墨田区立外手小学校 (平成 16年度卒業作品)★